

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
**(仮称)鏡石町マンション**

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

スコアシート		実施設計段階		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		評価点	重み係数				評価点	重み係数				
<b>Q 建築物の環境品質</b>											<b>2.9</b>	
<b>Q1 室内環境</b>								<b>0.40</b>				<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>							<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00		<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>							<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1 室内騒音レベル							<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.50		
2 設備騒音対策							-	-	<b>3.0</b>	0.50		
<b>1.2 遮音</b>							<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1 開口部遮音性能							<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.30		
2 界壁遮音性能							<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20		
<b>1.3 吸音</b>							<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-		
<b>2 温熱環境</b>							<b>2.6</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00		<b>2.8</b>
<b>2.1 室温制御</b>							<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1 室温							<b>3.0</b>	0.63	<b>3.0</b>	0.63		
2 負荷変動・追従制御性							-	-	-	-		
3 外皮性能							<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	0.38		
4 ゾーン別制御性							<b>3.0</b>	-	-	-		
5 温度・湿度制御							-	-	-	-		
6 個別制御							-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮							-	-	-	-		
8 監視システム							-	-	-	-		
<b>2.2 湿度制御</b>							<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20		
<b>2.3 空調方式</b>							<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30		
<b>3 光・視環境</b>							<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00		<b>3.0</b>
<b>3.1 昼光利用</b>							<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30		
1 昼光率							<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	0.50		
2 方位別開口							-	-	<b>3.0</b>	0.30		
3 昼光利用設備							<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20		
<b>3.2 グレア対策</b>							<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30		
1 照明器具のグレア							-	-	-	-		
2 昼光制御							<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00		
3 映り込み対策							-	-	-	-		
<b>3.3 照度</b>							<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15		
<b>3.4 照明制御</b>							<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25		
<b>4 空気質環境</b>							<b>3.0</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00		<b>3.4</b>
<b>4.1 発生源対策</b>							<b>3.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質							<b>3.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00		
2 アスベスト対策							-	-	-	-		
3 ダニ・カビ等							-	-	-	-		
4 レジオネラ対策							-	-	-	-		
<b>4.2 換気</b>							<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38		
1 換気量							<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
2 自然換気性能							<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.33		
3 取り入れ外気への配慮							<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
4 給気計画							-	-	-	-		
<b>4.3 運用管理</b>							<b>3.0</b>	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視							<b>3.0</b>	-	-	-		
2 喫煙の制御							<b>3.0</b>	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>							-	<b>0.30</b>	-	-		<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>							<b>2.4</b>	0.40	<b>3.2</b>	1.00		<b>2.9</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>							<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性							<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-		
2 高度情報通信設備対応							<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	1.00		
3 バリアフリー計画							<b>3.0</b>	1.00	-	-		
<b>1.2 心理性・快適性</b>							<b>1.0</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.40		
1 広さ感・景観							<b>3.0</b>	-	<b>4.0</b>	0.50		
2 リフレッシュスペース							<b>3.0</b>	-	-	-		
3 内装計画							<b>1.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.50		
<b>1.3 維持管理</b>							<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計							<b>3.0</b>	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保							<b>3.0</b>	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>							<b>2.9</b>	0.31	-	-		<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>							<b>3.0</b>	0.48	-	-		
1 耐震性							<b>3.0</b>	0.80	-	-		
2 免震・制振性能							<b>3.0</b>	0.20	-	-		
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>							<b>3.0</b>	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数							<b>3.0</b>	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							<b>3.0</b>	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							<b>3.0</b>	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							<b>3.0</b>	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							<b>3.0</b>	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔							<b>3.0</b>	0.23	-	-		

2.4 信頼性					2.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.1	0.29	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					-	-	3.0	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.1	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	各点検口から点検、補修できる計画としている。	3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	2.7
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	2.8
1 建物の熱負荷抑制					3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光パネルを設置する。	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					2.6	0.40	-	-	2.6
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					#VALUE!		-	-	
集合住宅の評価					2.6		-	-	
4 効率的運用							-	-	-
4.1	モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.6
1 水資源保護					3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63	-	-	2.9
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					1.6	0.22	-	-	1.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					1.0	0.68	-	-	
1	消火剤				-	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-	-	
3	冷媒				-	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮					2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	0.33	-	-	
2	振動				3.0	0.33	-	-	
3	悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる